



と き 令和元年 8 月 10 日 (土) 17 : 30 ~ 20 : 30

花火は 20 時頃

ところ 太閤山コミュニティセンター イベント広場

《雨天の場合》

会場は多目的ホール 花火は翌日 11 日 (日) 20 時頃

☆生ビール (1 杯 300 円) 焼酎・日本酒 (各 100 円)

☆焼き鳥・焼きそば・たこ焼き・もつ煮 (各 200 円)

太閤山地域振興会 (協力) 太閤山地区児童クラブ育成協議会

紙面が変わりました！

お気づきのことと思いますが、この号より紙面が変わりました。まず用紙を横長にして拡大しました。より多くの多彩な情報を掲載するため、この形を採用しました。

また裏面には、太閤山地域振興会健康ニュースの掲載を開始しました。真正会富山病院のご協力によるもので、毎回、健康に関わる気になるニュースをお送りする予定です。

今後とも充実した内容をお届けしたいと考えております。皆様方のご意見ご感想をお寄せいただければ幸いです。

より皆さんが集える広場に

コミュニティセンター前の広場が歩きやすくなりました。以前は溝を切って草を植えていましたが、溝をなくし平坦な広場に改修しました。納涼祭ではつまづくことがあるのではと心配しておりましたが、今年は安心できるようになりました。ぜひ広場にもお立ち寄りください。

夏の公園等除草清掃活動

太閤山公園 (相撲場) の除草・清掃については、6月2日 (日) 太閤山3・4丁目の皆さん、7月21日 (日) 太閤山7丁目の皆さんで行いました。二の井公園の除草については、7月21日 (日) 千成第1の皆さんで行いました。また、ふれあい公園については太閤山5・6丁目の皆さん、太閤山小学校につながるなかよし橋については太閤山9丁目・太閤山消防分団・太閤山小学校の子どもたちによる清掃などの環境整備を行いました。また千成第3・4, 6, 7町内会の皆さんには周辺の除草にあたっていただきました。

皆さんのおかげでいずれもすっきりした公園等になり、夏本番の利用に向けての準備が整い、クリーンな太閤山地域になりました。ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

秋にも清掃除草活動があります。担当する町内会の皆さんよろしくお願いします。

ペタンク！多くの皆さんが参加

第11回太閤山地区町内対抗ペタンク大会を、7月7日 (日) 太閤山小学校体育館にて行いました。当日は12チーム98名と、大変多くの参加を得て、にぎやかにプレーを楽しみました。ビュットという目標を目指してボールを投げるゲームですが、投げる直前の緊張感から、投げた瞬間にわっと笑顔になる皆さんの表情が印象的でした。結果については以下のとおりです。

優勝 千成第7町内会チーム

次勝 太閤山7丁目町内会Aチーム

参勝 千成第1町内会チーム

敢闘賞 太閤山3・4丁目チーム

お世話いただいた体育協会の皆さん、ありがとうございました。

今年は防災視察研修です

防災については視察と訓練を1年交代で実施していますが、今年は視察にあたります。9月1日 (日) に北陸電力志賀原子力発電所の視察見学を予定しています。まだ若干の参加が可能です。詳しくはコミュニティセンターまでお問い合わせください。

ひょうたん



先日、若い同僚に初めての子どもが生まれたとの話題が飛び込んできました。聞けば、両親が平成元年生まれ、子どもが令和元年生まれの、いわば「元年家族」とのことでした。輪をかけておめでたい話になりました。

ところで、昭和は64年間でした。そこでたとえば両親が昭和元年生まれ、子どもが平成元年生まれとなると、両親が64歳で生まれた子どもになります。現実にはちょっと難しいところですが、ないとは言えませんが。

また、大正は15年間でした。で、両親が大正元年生まれ、子どもが昭和元年生まれとなると、両親が15歳で生まれた子どもになります。これはありえません。

つまるところ、平成が31年間であったからこそ、「元年家族」が実現したということになりますね。

ちなみに「元年家族」、子どもの年齢に30を足せば親の年齢になります。子どもが30歳なら親は60歳、子どもが60歳なら親は90歳…期せずして子どもが親の介護をする姿を思い起こすことになりました。

冒頭、子どもが生まれたばかりのおめでたい話が、介護という話の結末になってしまいました。(M)



太閤山地域振興会では、真生会富山病院のご協力で毎回健康ニュースを掲載します。
皆様方の健康管理にお役立て下さい。

(今月のテーマ)

がん検診は受けるべき? ~医師が教える最新事情~

真生会富山病院 内科 刀塚俊起

「がん検診なんて無駄」「がん検診、やればやるほど死者を増やす」

という医療否定を堂々と書いた本が、100 万部も売れたといえます。心ある多くの医師が、天を仰ぐばかりでは、人々の疑問に答えることはできません。がん検診のような、もともと面倒なことに時間を使うのは嫌なのに、無駄と言われると、その意見に流されてしまうのが世の常です。

早期発見、早期治療で、90%以上助かるがんが急増

「がん検診はすべて無駄」「がんは放置せよ」と言うのは、全く大ざっぱな、最新の医学的知見を無視した意見です。「がん」と呼ばれる病気でも、できた部位によって、進行の過程も、生存率も大きく異なります。同じ「がん」と呼べないほど違うのです。糖尿病や高血圧症などの慢性疾患のように、上手く付き合っていけば天寿を全うできる「がん」もあります。反対に急速に進行して、3カ



月後には死に至る「がん」もあります。100%死に至る「がん」であったのが、現代医学のおかげで、90%以上助かるようになった「がん」もあります。「がん」=死の病というのは、過去のことであり、多くの「がん」の死亡率は下がっています。明らかに長く生きることができるようになったのです。

最近、Lancet 誌に世界 71 カ国のがんの生存率のデータ (CONCORD-3 study) が発表されました。膨大な数を集積して、2000 年から 5 年ごとの生存率が集計されています。日本はおおむね上位ではあります。特に消化器がんにおいては世界トップクラスです。人種地域差がありますから、生存率が高いところが、医療水準が高いとは言い切れません。特に注目すべきは、5 年毎の集計で各国のがん生存率が向上していることです。(ウラに続く)

日本でも

乳がん (85.8% → 88.9% → 89.4%)

結腸がん (63.4% → 66.8% → 67.8%)

小児リンパ性白血病 (79.7% → 83.7% → 87.6%)

と、生存率の明らかな向上がありました。かつて 20 年前に「がんと闘うな」「放置療法」を唱えた医師があり、早期がんは発見もいらない、進行がんの手術も化学療法も一切無意味と主張しました。彼の根拠としていたのは、早期がんは元々がんではないし、進行がんは何をしても治らないというものでした。当時のがん治療では、そのように考えても仕方のないながんも確かにありました。しかし医学はあきらめずに、この 20 年もひたすら、がん患者の生存率向上に向けて「闘って」きたのです。統計学では、生存率の向上は、なかなか示しにくいものです。そこにつけこまれて、誤った主張がまかり通ったのです。明らかにこの 10 年でがん治療の向上が見られてきましたので、旗色が悪くなり、最近ではトーンダウンしているようです。代わりに「高血圧も糖尿病治療もすべて意味がない」という主張に切り替えておられるようですが。

受けるべきがん検診は? 有用なのは「胃、肺、大腸がん検診」

検診には、自覚症状のない時期にがんを発見するというメリットがあります。自覚症状が出たがんは、すでに進行がんであることが多いからです。反面、健康な多くの人に、無駄な検査を行うということになります。特に公的な資金で行う場合は、経済面も考慮して、それらのバランスから検診は有効かどうかを考える必要があります。発見する必要性の低いがん(前立腺、甲状腺)は、検診の必要はありません。また、非常に稀ながんも検診の対象になりません。国立がん研究センター がん予防・検診研究センターでは、科学的根拠に基づくがん検診を推奨しています。まずは 40 才以上の男女の、年に 1 回の「胃、肺、大腸がん」検診です。加えて女性は子宮頸部、乳房を勧めています。これらはすべて自治体で行われています。

最近、次々と出てきている新しい手法の遺伝子検査は、まだ研究段階です。これから陸続と、臨床研究の結果が出てくるでしょう。また、がん治療法も、抗体療法から遺伝子治療へ向けて、射程距離に入ったといっただいでしょう。放置などとんでもない。がん検診について正しい理解をし、40 歳を過ぎたらがん検診を受けましょう。

